

ISSN 0454-8302

神奈川歯学

KANAGAWA SHIGAKU



オンライン学会総会

令和3年12月4日(土)

第56巻 プログラム 2021年学会総会

Vol. 56. Abstracts. December 2021

神奈川歯科大学学会雑誌

The Journal of the Kanagawa Odontological Society

開催のご挨拶



神奈川歯科大学学会 会長 石井信之

新型コロナウイルス感染症の国内蔓延により、本年も神奈川歯科大学総会
はオンラインとオンサイトとのハイブリッド開催と致しました。昨年の総会は
初めてのオンライン開催でしたが、従来は学会に参加できなかった日本全国の
学会会員にとって、参加可能になるメリットがありました。移動の時間や交通
費がかからないメリットも学会参加への追い風になりました。

2018年に政府が働き方改革法案を制定し、企業と事業主への支援を行ないま
したが、企業の反応は鈍く迅速な対応を行うことはできませんでした。しか
し、新型コロナウイルス感染症の影響は凄まじく強烈で、日本社会の働き方改革
が急速に進みました。この影響は、東京一極集中の改善につながり、三浦半島
地区や南房総地区、さらには関東近隣県への民族移動が開始されました。横須
賀市の人口は、1992年をピークとして減少傾向に転じ、三浦市も1994年をピ
ークとして減少し、2025年の推計人口は、三浦半島の4市1町（横須賀市、鎌
倉市、逗子市、三浦市及び葉山町）全てで人口が減少すると予測されていま
した。コロナウイルス感染症の影響は、人口減少の予測を止めてくれるかもしれま
せん。

神奈川歯科大学は、口腔の健康を通して体の健康と福祉を提供する人材育成
によって社会に貢献する使命を担っています。特に、入院患者や自宅療養して
いる人には肺炎や口内炎の予防、術後感染の予防に効果が証明されています。
本学会の研究活動が近隣地域はもとより、国内外への社会貢献の場として発展
できるよう努力してまいります。

新型コロナウイルス感染症を従来の常識を転換させる好機に捉え、ウイルス
との共存時代を私たちの英知と笑顔で乗り切りましょう。

特別講演

12月4日（土）10：30～11：30

ライブ配信

座長：浜田 信 城

令和の Cariology & Periodontology

— 病気の予防・治療は病因の除去 —

大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学

教授 天野 敦雄



削って詰めたからう蝕は治った。歯周ポケットが3ミリになったから歯周病は治った。そうでしょうか？むしろ歯菌も歯周病菌も口腔常在菌です。常在菌を追い出すことはできません。だからう蝕と歯周病に完治はありません。しかし、この2つの病気の予防と治療は可能です。それは病因の除去です。何を除去したらいいのでしょうか。最新の病因論をお話します。

● **21 世紀のキーワード・microbial shift**: バイオフィルムの病原性が高くなるのは常在菌の microbial shift が原因です。microbial shift とは、バイオフィルムを取り巻く 栄養、温度、pH、嫌気度などの環境変化によって悪玉菌達が活性化し増殖し、バイオフィルムが高病原化する現象のことです。バイオフィルム全体が低病原性から高病原性にシフトします。そして、バイオフィルムと歯・歯周組織の間の均衡が崩れ、う蝕や歯周病が発症します。

● **う蝕の原因菌**: ミュータンスレンサ球菌以外の酸産生菌も、う蝕発症に関わっています。これらの悪玉菌は砂糖だけでなく、他の発酵性糖質（グルコース、果糖、フルクトース、水や熱を加え調理したデンプンなど）を摂取して、酸を出します。彼らは不溶性グルカンは作りませんが、歯面や不良マージンに付着したバイオフィルムの中から酸を出します。一方、常在レンサ球菌の中にはアンモニアを出して酸を中和する善玉菌がいます。

● **う蝕の発生**: う蝕という疾患は「脱灰と石灰化のバランスが偏っている状態で有り、う蝕＝う窩ではない」という考えが浸透しました。脱灰因子と防御因子（脱灰を防ぎ石灰化を促進）の間のバランス崩壊が、う蝕の発生原因です。食事の度に発酵性糖質が口腔内に入り、悪玉菌が増殖し酸を産生し、酸性が苦手な善玉菌は減ります。これがう蝕の microbial shift です。

● **う蝕の治療**: 発酵性糖質を除去し microbial shift を元に戻して、脱灰因子を減らし防御因子を増やすことです。同時に、microbial shift を起こしたバイオフィルムも除去しなければなりません。この理屈が判ると、食後 30 分してからの歯磨きは誤りであることが判ります。

● **歯周病の原因菌**: レッドコンプレックスと呼ばれる3菌種を中心として、様々な細菌種の協働作業による microbial shift が歯周病発症の原因です。

● **歯周病の発症**: 磨き残された古いバイオフィルムの中で microbial shift が始まります。やがて歯周ポケットの内面に潰瘍（上皮が脱落した状態）が形成され出血が始まると、歯周病菌は血液中の鉄分とタンパク質を摂取し活性化し増殖します（鉄分とタンパク質は歯周病菌の必須栄養素）。その結果、バイオフィルムの病原性は大幅に高まり、歯周病が本格的に進行していきます。

● **歯周病の治療**: 歯周病発症の原因除去は細菌に供給される栄養を絶つことです。歯周基本治療によりポケット内の潰瘍面が修復し出血が止まると、バイオフィルムの病原性は大幅に低下し microbial shift は元に戻ります。

総会タイムスケジュール

12月4日（土）総会当日 10:00～14:15

時刻	オンライン開催
9:00	10:00開始
10:00	授賞式*
11:00	10:30～11:30 特別講演 大阪大学 天野敦雄先生
	休憩(30分)
12:00	12:00～12:45 ポスターディスカッション (Zoom BreakoutRoom)
	休憩(15分)
13:00	13:00～14:15 学位論文公聴会 5演題
14:00	

*授賞式のみハイブリッド開催；来場は授賞者のみ

視聴者・発表者の皆様へ

第56回神奈川歯科大学学会総会は、各発表をオンラインで視聴頂けます。

「学位論文公聴会(口演発表)」Zoom Webinar

「ポスター発表」バーチャルポスター会場・Zoom Breakout Room

「宿題報告」録画配信(オンデマンド配信)

本学会では、基本的に参加者はPCで動画を視聴することを想定しています。スマートフォンにも対応していますが、通信量を考慮してWI-FI環境での利用をお勧めします。

1. 視聴者の参加方法

1-1. 第56回学会総会画面にログイン

1-2. 「総会オンライン会場」の頁

2. Zoomの視聴方法

2-1. Zoomの起動

2-2. Zoomアプリのバージョン確認

2-3. 最新Zoomアプリのダウンロード

2-4. 「名前」と「メールアドレス」入力してログイン

2-5. Zoomの設定画面

2-6. Zoom 配信開始

3. 視聴者の発言の仕方(質問・コメントをしたいときに)

3-1. 手を挙げる

3-2. チャット

4. Zoomをブラウザで開く場合

5. 発表者(演者)が、「画面を共有」して説明する方法

6. Zoom Breakout Roomの参加方法(ポスター発表ディスカッション)

1. 視聴者の参加方法

1-1. 第56回学会総会画面にログイン

下記ID/PWで第56回学会総会画面にログイン下さい。12月1日(水)より視聴可能です。

第56回神奈川歯科大学学会総会

<https://society.main.jp/kdu/kdu56/virtual/index.html>

ユーザーID: kdu56

パスワード: 20211204



HPの「ご挨拶」の「総会オンライン会場」からでも入れます。

1-2. 「総会オンライン会場」の頁

- ① ポスター発表オンライン展示会場へリンクします。(12月1日(水)～12月24日(金)公開)
- ② 宿題報告オンデマンド配信へリンクします。(12月4日(土)～12月24日(金)公開)
- ③ ⑤ 総会のZoom視聴URLへリンクします。(12月4日(土)当日 10:00～14:15まで)
授賞式から特別講演、公聴会を視聴できます。Zoom Webinarで配信いたします。
(Zoomが開きます) 視聴の仕方は、Zoomの視聴方法をご覧ください。
- ④ ポスター発表ディスカッションのZoom参加URLへリンクします。
(12月4日(土)当日 12:00～12:45まで) Zoom Meetingにて配信します。
(Zoomが開きます) Zoom Breakout Roomにて参加ください。
参加の仕方は、Zoom Breakout Roomの参加方法をご覧ください。

第56回神奈川歯科大学学会総会

オンライン公開会場

1. バーチャルポスター会場(オンラインポスター展示会場)は、
12月1日(水)～12月24日(金)まで公開しています。

2. 宿題報告オンデマンド配信は、12月24日(金)まで視聴できます。

バーチャル
ポスター会場

宿題報告
オンデマンド配信

1

2

Zoomによる視聴、ディスカッション

12月4日(土) 総会当日には公聴会、ポスターディスカッションをZoomにて開催いたします。
下記表の参加される部分をクリックしてください。Zoomが開きます。

12月4日(土) 総会当日

時刻	オンライン開催
9:00	
	10:00開始
	授賞式*
10:00	
	10:30～11:30 特別講演 大阪大学 天野敬雄先生
11:00	
	休憩(30分)
12:00	
	12:00～12:45 ポスターディスカッション (Zoom BreakoutRoom)
	休憩(15分)
13:00	
	13:00～14:15 学位論文公聴会 5 演題
14:00	

*授賞式のみハイブリッド開催：会場は授賞者のみ

最新のZoomアプリをご利用ください。最新のZoomアプリは、下記よりダウンロードしてください。

最新のZoomをダウンロードする

page top

↑

2. Zoom の視聴方法

2-1. Zoomの起動

- ・Zoomアプリがインストールされている場合は自動で立ち上がります。
- ・Zoomアプリがインストールされていない場合は、ダウンロードを実行。



2-2. Zoomアプリのバージョン確認

Zoomアプリがインストールされている場合は最新バージョンか確認ください。

一度、Zoomをサインアウトし、再度 Zoomアプリを開く際にバージョンが表示される画面が表示されます。

現在の最新バージョンは：5.8.3（2021年10月20日 現在）



Zoom アプリのバージョンが古いと、脆弱性の改善がなされていない場合があります。
また、アプリが最新版で無いと「Zoom Breakout Room」に参加できません。

2-3. 最新Zoomアプリのダウンロード

最新Zoomアプリは、<https://zoom.us/download> から手動でダウンロードしてインストールしてください。手動の方が確実にアップデートできます。



2-4. 「名前」と「メールアドレス」入力してログイン

名前欄にはフルネームを入力下さい

2-5. Zoomの設定画面

ログイン後、待機のアナウンスまたは「設定画面」が表示されます。質疑応答のためにマイク設定しておいてください。（ログイン後はミュートの状態になっています。）



2-6. Zoom 配信開始

口演発表が始まりましたら、下記の画面が表示され、動画が配信されます。



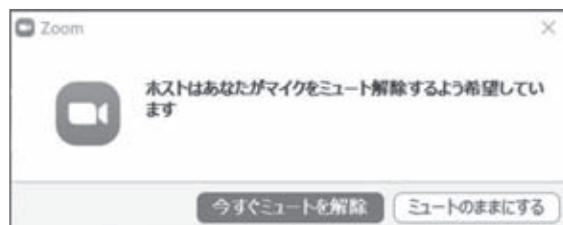
3. 視聴者の発言の仕方（質問・コメントをしたいときに）

学位論文公聴会(口演発表)では最後に質疑応答があります。視聴者からの質問を受け付けます。視聴者には「チャット」「手を挙げる」の2つの発言を求める方法とQ&Aがあります。（Q&Aは質問を一つに統一するため使いません。）



3-1. 手を挙げる

- ・発言を申し出る場合は、「手を挙げる」をクリックしてください。
- ・ホスト（座長）より指名されますと「ミュート解除」のアナウンスが届きます。



- ・オーディオ操作で「ミュートを解除」して発言してください。
- ・操作パネルは画面の下に全てあります。

操作パネルが、隠れている場合はカーソルを画面下まで持ってきてください。

・通常の学会と同じく、せっかく発言を求めても座長が指名できない場合がありますのでご了承下さい（時間の都合、気づかなかったなど）。ミュート解除作業がうまく行かないこともあります。

・ふだんの会話では、私達は相槌を打つなどして相手が話しているうちに話し始めることは珍しくありません。オンラインの会話では、相手が話し終えてから話し出すことを意識したほうが伝わりは良いようです。

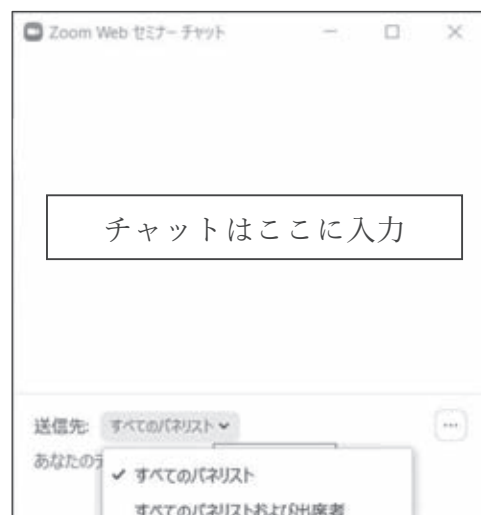


3-2. チャット

座長が採用したチャットを読み上げて討論することがあります。

チャットは、座長・演者に伝わりやすいように記載をお願いします。

質疑応答中に採用されなかったチャットも演者が事後にチェックすると伝わります。メール等で回答を求めるときは連絡先などを明記しましょう（事務局では演者に質問者のアドレス等は教えられません）。



4. Zoomをブラウザで開く場合

Zoomはアプリをインストールしなくても使えますが、ブラウザの種類によって機能が制限されるのでアプリ版の利用をオススメします。（例えば、IEやSafariのブラウザでは画面共有の機能を使う事ができません。逆にGoogle Chromeだと全ての機能が使えます。また、Zoomアプリの方がブラウザで使うより表示速度・動作が早いです。）



「ブラウザから参加する」をクリック

名前欄にはフルネームを入力ください。



後の操作は、Zoomアプリと同じです。

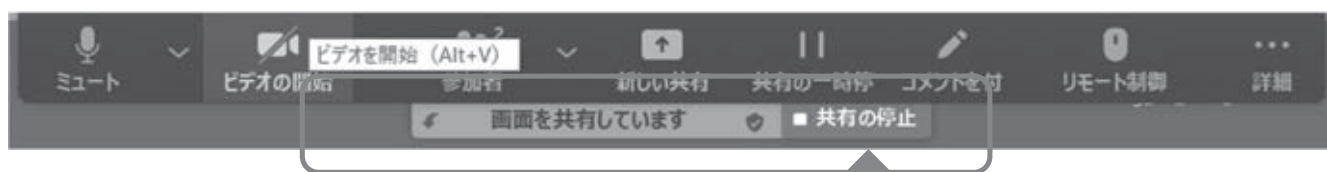
5. 発表者（演者）が「画面を共有」して説明する方法

発表者（演者）は、「画面を共有」を使うことができます。（Webinar 視聴者側は非表示）
「画面を共有」を活用して口演発表を始めてください。

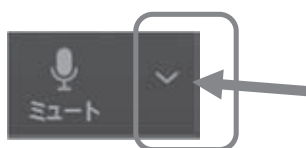
- * 「画面を共有」で発表者側のパソコン画面を共有する（映す）ことができます。
「ベーシック」で共有する「画面」を選択後に「共有」ボタンをクリック



***注意：画面共有で音声付きビデオを共有する場合は、下の「コンピューターの音声を共有」にチェックを入れてください。（音声付きビデオ再生以外はチェック不要です。）**



画面共有が終わったら必ず「共有の停止」をしてください。



音声が繋がらない場合はミュートボタン隣の三角「v」をクリックしてマイクが選択されているか確認してください。

画面共有するスライドサイズは、ワイド（16：9）サイズをお薦めします。

6. Zoom Breakout Roomの参加方法

ポスター発表のディスカッションは「Zoom Breakout Room」を使います。

アプリのバージョンが古いと「Zoom Breakout Room」が使えない場合があります。最新版をダウンロードしてインストールしてください。（Zoom視聴方法に最新版ダウンロードURLを記載しています。）

＊「ブレイクアウトルーム」は、メニューバーの「詳細」タブの中に含まれている場合もあります。



「ブレイクアウトルーム」をクリックするとブレイクアウトルームの各部屋が開きます。

ディスカッション希望の部屋の「参加」をクリックしてください。部屋を移動する場合も希望の部屋の「参加」をクリックしてください。



発表方法は、「発表者（演者）が「画面を共有」して説明する方法」をご覧ください。

エイジングに伴う循環障害が脳および口腔に与える影響
-微小循環的手法を用いた形態学的解析-

口腔解剖学 准教授 東 雅啓

超高齢社会を迎えた日本では、疾病構造の変化や要介護者数の増加により、医療・福祉における問題がクローズアップされてきている。そのような中で、個人の QOL をいかに低下させずに健康寿命を延ばすかが課題となっている。しかしながら、生活習慣病などの全身疾患の有病者数は年々増加し、近年ではその全身疾患と歯周病などの口腔疾患との関連性が社会的に問題視されてきている。我々のリサーチグループはこれまでに歯周組織の微小循環に注目して研究を行ってきた。歯周組織においては多数の血管網が存在しており、ヘアピン状の毛細血管ループが規則的に認められる。また、イヌを用いた実験においては、歯周組織再生過程で血管新生を誘導することで歯槽骨の早期再生に繋がれることを見出し以前に論文発表した。さらには歯科治療時に用いる機器の種類によって歯周組織の血管網が障害される程度が異なることも形態学的に見出した。これまでにマウスを用いて脳虚血による全身および口腔機能への影響も学会・論文発表をしており、脳および口腔における微小循環を重要性について検討を行ってきた。そこで本研究では、様々な生活習慣病の発症や病態において鍵となる循環機能（動態や形態）に着目し、エイジングに伴い生じる循環障害を脳および口腔の微小循環に焦点を当てて検討し、全身疾患と口腔疾患との関係性の解明に繋げることを目的として行った。

本研究では、老齢ラットを用いて脳および口腔の微小循環・運動機能を検討した。血管の形態学的解析を行うために、注入用合成樹脂メチルメタクリレートによる血管鋳型標本を作製し、走査型電子顕微鏡で脳周囲と歯周組織の血管を観察した。観察結果から、脳および口腔における循環障害の状態を評価した。運動機能はオープンフィールドテストを用いて解析した。また血管新生の促進因子である VEGF の唾液中および血中濃度を ELISA にて測定することで、血管新生における機能学的解析を行った。

解析の結果、コントロールと比較して歯肉における血管ループが乏しく、実験群における血管は比較的太くいびつな形態を示した。また実験群の脳においても同様な形態を認めた。さらに運動機能においては、オープンテストを用いて評価したところ、センターエリアへの侵入回数が有意に少なかったほか、総移動距離も少ない傾向であった。そして、唾液中および血中 VEGF は実験群で高い傾向にあった。

以上の結果から、老齢ラットにおいて運動機能の低下が認められたほか、歯肉や脳における微小循環が乏しいことを見出したことから、エイジングに伴う全身機能や微小循環の障害を確認することができた。今後は運動機能の低下および微小循環の障害を改善して全身と口腔の関連性を検討して、生活習慣病などの疾患の改善や予防にどのような効果を与えるか分析することで、全身疾患と口腔疾患との関係性の解明に繋げたい。



座長：石井 信之

O-01 変色エナメル質に対するホームブリーチング剤適用時間の検討

○小倉 真奈¹、飯塚 純子¹、國松 雄一¹、中村 郁哉³、木村一須田 廣美³、高垣 裕子²、
向井 義晴¹

¹保存修復、²神奈川歯科大学、³公立千歳科学技術大学大学院 理工学研究科

座長：山本 龍生

O-02 菓子類を用いた咀嚼訓練が高齢者の口腔機能に及ぼす影響

○西崎 仁美¹、飯田貴俊²、辰野雄一¹、杉山俊太郎¹、八尾有紀¹、田中洋平¹、
林恵美¹、原豪志¹、森本佳成¹

¹高齢者歯科、²北海道医療大学リハビリテーション科学部

座長：小林 優

O-03 成人矯正治療における臨床的歯冠長の変化－中間歯非抜歯症例－

○塚田 恵造、佐藤 允俊、尾関 佑美、不島 健持
高度矯正

座長：高橋 俊介

O-04 肥満による術後痛増強メカニズムの解明

○片桐 法香、城戸 幹太、讃岐 拓郎
歯科麻酔

座長：山口 徹太郎

O-05 CAD/CAM サージカルスプリントを用いた上顎骨切り術の精度

○小關 理恵子¹、鈴木 健司¹、不島 健持²、小林優¹

¹口腔外科、²高度矯正

ポスター I 動物実験・基礎研究



- P-01** 口腔内炎症に対する抗酸化治療の開発
○齊田 牧子¹、佐藤 武則²、浜田 信城³、半田 慶介²、木本 克彦¹
¹クラウンブリッジ補綴、²口腔生化、³口腔細菌
- P-02** 自己免疫疾患モデルマウスにおける歯髄損傷過程の組織学的解析
ー関節炎リウマチモデルマウスにおける解析ー
○山崎 詩織、林 玲緒奈、武藤 徳子、石井 信之
歯内療法
- P-03** 自己免疫疾患モデルマウスにおける歯髄損傷過程の組織学的解析
ーIgA 腎症モデルマウスにおける解析ー
○林 玲緒奈、山崎 詩織、武藤 徳子、石井 信之
歯内療法
- P-04** BMP-1-GCase 系が調節するヒト歯髄培養細胞の phenotype の探索
○室町 幸一郎、石井 信之
歯内療法
- P-05** ラット下顎臼歯歯髄処置を目的とした固定台の応用
○中島 知佳子¹、藤田 茉衣子¹、中村 州臣¹、高垣 裕子²、木本 茂成¹
¹小児歯科、²神奈川歯科大学
- P-06** 歯科用CBCTによる無歯顎顎堤粘膜の印象法に関する研究
ー歯科材料のX線吸収率に関する基礎的検討ー
○Alqassab Bashar、須藤 真行、玉置 勝司
顎咬合機能回復
- P-07** 歯科用CBCTによる無歯顎顎堤粘膜の印象法に関する研究
ー無歯顎顎堤模型の再現精度に関する基礎的検討ー
○Al taai Audai、須藤 真行、玉置 勝司
顎咬合機能回復
- P-08** 磁性アタッチメント義歯を外し忘れてMRI検査を受けるとどうなるか
○印南 永¹、泉 雅浩¹、藤井 学¹、上原 雄人¹、谷口 紀江¹、香西 雄介²、櫻井 孝¹
¹画像診断、²教育企画

- P-09** 渋柿タンニンの濃度が多菌種バイオフィルムへの抗菌効果に与える影響
○富山 潔¹、石澤 将人¹、渡辺 清子²、河田 亮³、浜田 信城²、向井 義晴¹
¹修復、²微生物、³組織
- P-10** S-PRG 溶出液の初期形成過程の多菌種バイオフィルムに対する抗菌効果
○富山 潔¹、石澤 将人¹、渡辺 清子²、河田 亮³、浜田 信城²、向井 義晴¹
¹修復、²微生物、³組織
- P-11** 半導体レーザー照射が硬組織に与える影響
ー照射時の表面および歯髄側温度についてー
○小俣 愛実¹、片山 裕太¹、富山 潔²、大橋 桂¹、向井 義晴²、二瓶 智太郎¹
¹バイオマテリアル、²保存修復
- P-12** 電動音波歯ブラシと流水型歯面洗浄装置の洗浄効果の比較
○井上 吉登、時安 善彦、大山 洋、横山 三菜、松原 聡、木本 茂成
小児歯科



P-13 ジルコニアに対する接着耐久性

○角井 早紀¹、片山 裕太²、熊坂 知就¹、大橋 桂²、星 憲幸¹、木本 克彦¹、
二瓶 智太郎²

¹クラウンブリッジ補綴、²バイオマテリアル

P-14 CAD/CAM用ハイブリッドレジンに関する研究（第10報）
ー前歯部用レジンブロックの摩耗性についてー

○黒田 哲郎、片山 裕太、中尾 伸、大橋 桂、二瓶 智太郎
バイオマテリアル

P-15 CAD/CAM用PEEK材の特性（その1）

○片山 裕太、大橋 桂、二瓶 智太郎
バイオマテリアル

P-16 歯科用コーティング材塗布後の保管状態による接着性への影響

○白木 麗
クラウンブリッジ補綴

P-17 象牙質接着剤のセメント芽細胞に対する細胞傷害性に関する研究

○王珽萱¹、渡邊 清子^{2,3}、武藤 徳子¹、浜田 信城²、石井 信之¹
¹歯内療法、²口腔細菌、³教養教育

P-18 フッ化物含有象牙質知覚過敏治療材塗布による根面脱灰病巣の進行停止効果

○中野 貴文¹、川村 和章¹、椎谷 亨²、向井 義晴²
¹口腔保健、²保存修復

P-19 イヌ根未完成歯におけるPRGセメントを用いた硬組織誘導能の評価

○大谷 茉衣子¹、中村 州臣¹、日高 恒輝²、中島 知佳子¹、川股 亮太³、高垣 裕子⁴、
木本 茂成¹

¹小児歯科、²保存修復、³国際歯科医療、⁴神奈川歯科大学



- P-20** CAD/CAMシステムによる歯冠修復処置に関する臨床研究
—小臼歯部冠用レジンブロックの臨床データについて（その2）—
○中村 圭佑¹、井上 絵理香²、清宮 一秀²、大橋 桂¹、星 憲幸³、木本 克彦³、
二瓶 智太郎¹
¹バイオマテリアル、²技工科、³補綴科
- P-21** 欠番
- P-22** 小児の口腔機能発達と身体機能の関連性
○小川 綾野、坪川 茉莉、浅里 仁、井上 吉登、藤田 茉衣子、中村 州臣、亀倉 ともみ、
青木 嵯由里、中島 知佳子、菅原 舞美、中村 朋美、木本 茂成
小児歯科
- P-23** 補綴治療による口腔カンジダ症と唾液量の影響
○足立 拓也、川西 範繁、市ヶ谷 成美、斎田 牧子、服部 慎太郎、星 憲幸、
木本 克彦
クラウンブリッジ補綴
- P-24** 口腔乾燥を伴う口腔内症状改善に対する補綴学的アプローチの有効性の検討
○川西 範繁、市ヶ谷 成美、足立 拓也、斎田 牧子、星 憲幸、木本 克彦
クラウンブリッジ補綴
- P-25** Visual Analog Scaleを用いたストレス評価
—歯科治療の種類における恐怖や不安の比較—
○武村 幸彦¹、花岡 孝治²、木村 浮子³、二階堂 修³、水谷 文子⁴、向井 義晴¹
¹歯科保存、²歯科教育、³臨床研修医、⁴歯科麻酔
- P-26** 咬合違和感症候群（Occlusal discomfort syndrome）患者の修飾因子に関する
臨床的研究
○島田 淳、仲井 太心、渡辺 秀司、片岡 加奈子、藤原 基、玉置 勝司
顎咬合機能回復
- P-27** 歯科治療時におけるアルコール関連障害群患者の自律神経解析
○井上 裕之^{1,4}、長谷 則子²、井出 桃³、横山 滉介⁴、小松 知子⁴、伊海 芳江⁵、李 昌一⁶、
関端 麻美³、吉本 夢³、角田 晃³、宮城 敦³、西村 康³、長谷 徹³
¹久里浜医療センター歯科、²歯科大歯学部、³歯科衛生、⁴障害者歯科、⁵横浜市開業、⁶災害
センター

- P-28** 障害者へのオンラインによる摂食嚥下指導の有用性の検討
○萩原 大¹、横山 滉介²、赤坂 徹¹、高野 知子¹、鈴木 杏奈¹、小松 知子¹、井野 智³
¹障害者歯科、²歯科メンテナンス、³有床義歯補綴
- P-29** トモシンセシス法を用いたパノラマX線画像における硬組織所見の主観的および物理学的画質評価
○杉原 俊太郎¹、両角 俊哉¹、香西 雄介²、印南 永³
¹歯周病、²教育企画、³画像診断
- P-30** 医科歯科連携による歯周病、糖尿病のスクリーニング検査とその有用性の検討
○平田 貴久¹、両角 俊哉¹、杉原 俊太郎¹、門田 大地¹、青木 一孝²
¹歯周病、²糖尿病・内分泌内科
- P-31** オーラルクロマによるVSC気体量と官能試験結果の関連性について
○椎谷 亨¹、青山 典生²、三辺 正人²、向井 義晴¹
¹保存修復、²歯周病



P-32 全国市区町村における常勤の行政歯科専門職の配置状況に関連する要因

○ 瀧田 慎也¹、伊藤 奏²、持田 悠貴³、山本 龍生³

¹教育企画、²東京医科歯科大学、³社会歯科

P-33 日本の歯科治療に対する国民の満足度に関するアンケート調査
第1報 歯科医療への受診行動と評価

○ 高橋 美保¹、中山 奈緒子¹、島田 淳²、玉置 勝司²

¹東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース、²顎咬合機能回復

P-34 日本の歯科治療に対する国民の満足度に関するアンケート調査
第2報 歯科治療の頻度と評価

○ 玉置 勝司¹、島田 淳¹、中山 奈緒子²、高橋 美保²

¹顎咬合機能回復、²東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース

P-35 2020 ～ 2021 年法医鑑定概要

○ 山田 良広^{1,3,4}、大平 寛^{1,4}、山本 伊佐夫^{2,4}、藤田 紗英子^{1,4}、鎌倉 尚史^{1,4}、
中川 貴美子^{2,4}、長谷川 巖^{2,3,4}

¹歯科法医、²法医、³剖検センター、⁴日本厚生協会

P-36 2018 ～ 2019 年度の神奈川歯科大学附属病院歯冠修復装置数について

○ 井上 絵理香¹、中静 利文¹、古川 辰之¹、飯塚 直人¹、鈴木 和也¹、金澤 佑姫¹、
白木 麗²、川西 範繁²、長島 信太郎²、熊坂 知就²、小俣 愛実³、中村 圭祐³、
清宮 一秀¹、山谷 勝彦¹、大橋 桂³、星 憲幸²、木本 克彦²、二瓶 智太郎³

¹歯科技工、²クラウンブリッジ補綴、³バイオマテリアル

P-37 神奈川歯科大学外国人学部学生のためのアジア諸国における歯科医師による麻酔業務の実態調査

○ 讃岐 拓郎、香川 恵太、黒田 英孝、今泉 うの、城戸 幹太
歯科麻酔

P-38 当科における全身麻酔下歯科治療の実態調査

○ 菅原 舞美¹、浅里 仁¹、小川 綾野¹、井上 吉登¹、大谷 茉衣子¹、中村 州臣¹、
青木 嵯由里¹、亀倉 ともみ¹、中島 知佳子¹、森本 佳成²、木本 茂成¹

¹小児歯科学講座、²全身管理高齢者歯科学講座

P-39 歯周病ポケット検査における代表歯・部位の選定

○両角 俊哉¹、野村 義明²、中川 種昭³、沼部 幸博⁴、菅谷 勉⁵、佐藤 聡⁶、野口 和行⁷、吉成 伸夫⁸、吉村 篤利⁹、西村 英紀¹⁰、齋藤 淳¹¹、福田 光男¹²、小林 宏明¹³、菅野 直之¹⁴、多部田 康一¹⁵、高橋 慶壮¹⁶、梅田 誠¹⁷、高柴 正悟¹⁸、三邊 正人¹⁹、小方 頼昌²⁰

¹歯周病、²鶴見大、³慶應大、⁴日本歯科大、⁵北海道大、⁶日本歯科大新潟、⁷鹿児島大、⁸松本歯科大、⁹長崎大、¹⁰九州大、¹¹東京歯科大、¹²愛知学院大、¹³東京医科歯科大、¹⁴日本大、¹⁵新潟大、¹⁶奥羽大、¹⁷大阪歯科大、¹⁸岡山大、¹⁹文教通り歯科、²⁰日本大松戸

P-40 食事に対する意識と口腔の指標の関係

○青山 典生¹、喜田 さゆり¹、矢田 朋美¹、藤井 利哉¹、谷口 健太郎¹、岩根 泰蔵²、野澤 一郎太³、藤原 基³、玉置 勝司³

¹歯周病、²神奈川県立保健福祉大学栄養学科、³顎咬合機能回復

P-41 欠食がある人ではうま味の感受性が低下している

○矢田 朋美¹、青山 典生¹、喜田 さゆり¹、藤井 利哉¹、谷口 健太郎¹、岩根 泰蔵²、野澤 一郎太³、藤原 基³、玉置 勝司³

¹歯周病、²神奈川県立保健福祉大学栄養学科、³顎咬合機能回復

P-42 歯周炎症表面積と糖質摂取の関連

○喜田 さゆり¹、青山 典生¹、藤井 利哉¹、野澤 一郎太²、谷口 健太郎¹、矢田 朋美¹、岩根 泰蔵³、藤原 基²、玉置 勝司²

¹歯周病、²顎咬合機能回復、³神奈川県立保健福祉大学栄養学科

P-43 口腔内細菌の多様性と口臭の関連

○谷口 健太郎¹、青山 典生¹、藤井 利哉¹、喜田 さゆり¹、竹田 綾²、野澤 一郎太³、矢田 朋美¹、藤原 基³、玉置 勝司³

¹歯周病、²株式会社サイキンソー、³顎咬合機能回復

**P-44 オーラルフレイルの口腔検査指標と全身状態の関連性に関する研究
第5報 罹患型別におけるオーラルフレイルと身体の状態との関連性の検討**

○野澤 一郎太¹、玉置 勝司¹、藤原 基¹、青山 典生²、藤井 利哉²、春田 真穂³、岩根 泰蔵⁴、三邊 正人²

¹顎咬合機能回復、²歯周病、³神奈川歯科大学病院、⁴神奈川県立保健福祉大学 栄養学科



- P-45** 臨床実習における留学生医療コミュニケーション能力の支援についての研究
○浅里 仁、木本 茂成
小児歯科
- P-46** 歯科材料・器械の画像・動画の配信システム「Dental Materials and Devices Library ver.2」の構築
○大橋 桂、片山 裕太、中村 圭佑、小俣 愛実、二瓶 智太郎
バイオマテリアル
- P-47** ジルコニア接着ブリッジによる低侵襲な欠損補綴を行った2症例
○日高 恒輝¹、井上 絵理香²、金澤 佑姫²、向井 義晴¹
¹保存修復、²歯科技工
- P-48** 咬合再構成によって咀嚼機能障害を改善した1例
○久保 大二郎、丸尾 勝一郎、菊田 大士、山田 重雄、江田 尚弘、星 憲幸、
木本 克彦
クラウンブリッジ補綴
- P-49** 咬合違和感症候群（ODS）患者に対する対応に関する1症例
—漢方処方により症状の軽減が得られた症例—
○仲井 太心、島田 淳、渡辺 秀司、片岡 加奈子、藤原 基、玉置 勝司
顎咬合機能回復
- P-50** 歯科治療時に発生した全身的偶発症に対し、歯科衛生士が迅速に初期対応を行った2例
○渡邊 真由美¹、城戸 幹太²、中島 滯¹、菅原 美咲¹、荘司 琴¹、讃岐 拓郎²
¹歯科メンテナンス、²歯科麻酔
- P-51** 脱落した根未完成中切歯にリバスクリゼーションを試みた1例
○中村 州臣、藤田 茉衣子、松原 聡、浅里 仁、小川 綾野、青木 嵯由里、亀倉 ともみ、
中島 知佳子、黒田 梨乃、菅原 舞美、井上 吉登、木本 茂成
小児歯科

<優秀ポスター賞のご案内>

バーチャルポスター会場にて「いいね」をたくさん集めたポスターは
優秀ポスター賞として表彰致します。

神奈川歯科大学学会HPのご案内

神奈川歯科大学学会では総会や例会などのご案内についてHPでもお知らせしております。来年度からは学会機関誌「神奈川歯学」の電子版も掲載予定です。

今後はHPも是非ご活用下さい。

例会（2月・6月・10月開催予定）

総会（12月上旬開催）

学会機関誌「神奈川歯学」（2月・6月発行）

学会HP：<http://www.labs.kdu.ac.jp/gakkai/>



※今後、郵送物が不要の方は学会事務局までご連絡下さい。